

第7期（令和2－3年度）
境港市みんなでまちづくり推進会議事業報告書

令和4年3月

第7期境港市みんなでまちづくり推進会議委員

< 目 次 >

1. はじめに	1
2. 協議テーマ「住み続けたいくなるまちづくり」	
(1) 協議経過	2
(2) 協議結果	3
3. 市民活動推進補助金の審査	
(1) 審査経過	6
(2) 採択事業	6
(3) 審査方法の変更	8
4. 各委員の感想	10
5. 総括	11
6. 会議開催経過	12
7. 委員等名簿	13

1. はじめに

境港市みんなでまちづくり推進会議は、平成19年に「境港市みんなでまちづくり条例」の実効性を確保するために、促進・参加・協働・支援の実施状況の評価や、協働事業の提案に関する審査などを行う機関として設置されました。

第5期（平成28－令和元年度）においては、「若い世代の（行政）参加」をテーマに意見交換をし、「みんなでまちづくり推進会議」の次期構成メンバーの若年化を図りました。

第6期（平成30－令和元年度）においては、「U・Iターンをしたくなるまちづくり」について協議を行い、地元高校生や島根大学生、境港市への移住者とワークショップの実践や協議を重ね、本推進会議並びに島根大学生からそれぞれ市長へ提言書の提出を行いました。

第7期（令和2－令和3年度）においても、市長へ提言ないしは報告を行うことを目標とし、島根大学法文学部教授 毎熊 浩一氏（※）をアドバイザーに迎え、動き出したものの、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、書面開催や時短開催を余儀なくされ、地元高校生や島根大学生とのワールドカフェなど過去に実施してきたようなワークショップの開催はできませんでした。

そのような状況にあっても、この2年間、委員間でのワークショップの開催やアンケートの実施、また、定例の市民活動推進補助金の審査を行い、協議テーマと定めた「住み続けたいくなるまちづくり」について、委員の意見と、市民活動推進補助金の審査結果を報告書としてまとめました。

市におかれましては、本事業報告書を参考にいただき、今後のまちづくりに生かしていただくことを期待しております。

※毎熊 浩一（まいぐま こういち）氏

島根大学法文学部教授。行政学を専門とし、参加と協働に関する実践的研究等を行っている。境港市においては、「境港市みんなでまちづくり条例」の策定を行った「境港市協働のまちづくり推進懇話会」や「境港市議会基本条例市民検討会議」のアドバイザーを務められ、また、本推進会議では第3期からアドバイザーを務めていただいている。

2. 協議テーマ「住み続けたいくなるまちづくり」

第6期の「U・I ターンしたくなるまちづくり」から続くテーマとして「住み続けたいくなるまちづくり」を今期のテーマとして掲げ、委員間ワークショップの際に意見があった「情報発信」を盛り込んだ提案とすることに決定しました。

(1) 協議経過

日時	内容	参加者
令和2年3月30日	事務局説明・協議	委員
令和2年7月20日	ワークショップ方式による協議「ウィズ・コロナ時代のまちづくり」	委員、 毎熊アドバイザー
令和2年8月11日	事務局説明・協議	委員
令和3年3月29日	事務局説明・協議	委員
令和3年3月～5月	委員＋委員知り合いなどにアンケート聴取	委員、委員知り合い、 移住者
令和3年5月6日	アンケート結果配布	委員
令和3年9月12日	市民ワークショップ開催	委員から4名の参加 (1名欠席)
令和4年2月	文書にて委員意見聴取	委員
令和4年3月7日	事務局説明・協議	委員

(2) 協議結果

委員のアンケートや市民ワークショップ等で出た意見の中から、特に関心が高い事項について次のとおり、とりまとめましたのでご報告します。

1. 市民の交流推進、地域コミュニティの強化

市民同士がつながるきっかけや機会を増やすこと、異世代・異業種の人や国内外からの移住者など多種多様なたくさんの市民が交流し、地域コミュニティを強化することで、市の課題だけでなく、市民が気づいていない市の魅力などを共有することが出来ます。

このことにより、行政と市民の距離が縮まり、新たな協働の活動が創出されます。

また、他地域との人流が生まれるような環境や若者の出会いの場などの創出が必要です。

★キーワード

異世代・異業種・移住者との交流、若者の出会いの場の創出、地域井戸端会議、リモート交流

2. 豊かな自然環境を生かした産業の振興

本市は三方が海に開けた素晴らしい自然環境にあります。自然災害も少なく、とても住みやすいまちです。

この自然環境を生かして水産品、農産品などの地元産品のブランド化、高付加価値化を図り、地元企業の価値を高め、長く働ける場所を増やしていく必要があります。

また、そうした自然環境や地元産品を活用した環境教育や食育を通じて、小さい頃からふるさとへの愛着を育む教育を推進する必要があります。

一方で、市の課題である耕作放棄地を活用した農業の推進や空き家の利活用を進め、移住者や若い世代が定住できる環境整備が必要です。

★キーワード

自然を生かす、体験型の観光振興（釣り場の整備、マリンレジャー、食・農業体験）、雇用の促進、耕作放棄地の整備（農業の推進）、空き家の利活用、地元産品の活用

3. 車がなくとも生活できる暮らしの支援

本市は平坦でコンパクトなまちですが、多くの市民が、生活するために自家用車を移動手段としています。

車の運転が困難な高齢者等が買い物や通院時に公共交通を利用することが多いため、市内主要施設をつなぐ公共交通の充実・利便性向上が必要です。

また、移動販売や配達システム、配車サービス、自転車や車のシェアリングといった取組を地域で進めるための支援も必要です。

★キーワード

交通手段の充実、陸・海・空の交通網の連携、はまる一歩バスの増便、配達システム構築、移動販売、配車サービス、自転車や車のシェアリング、自転車や歩行者にやさしく安全な道づくり

4. デジタル技術を生かした情報発信

近年、情報の入手先として、SNS が大きくシェアを伸ばしており、本市においてもホームページをはじめ、Twitter や YouTube 等を活用したわかりやすい情報発信が求められています。

市からの情報発信だけでなく、子育て中の方や移住者など、多くの市民が SNS やマスメディア等により、体験したことや市の魅力などを発信することを促進するための施策も必要です。

一方で、情報発信のデジタル化により、デジタル技術の活用慣れていない人が取り残されないように、市からはきめ細やかな案内を行い、同時に、地域の中で教え合うことのできる支援体制が必要です。

★キーワード

市の情報を配信するメールサービス、マスメディアで発信、公民館での SNS 講座、市の魅力を発信した人・団体に対する支援（割引券や活動費の支給）

5. 選ばれるための魅力ある教育環境の整備

県外の人に移住してもらい、また、今いる市民にこれからも住み続けてもらうには、その地域の教育環境はとても重要なポイントです。子どもたちの学力向上のための施策や高等教育機関の誘致、デジタル技術により境港にいても専門性の高い教育を受けられる環境の整備が必要です。

また、境港で育った子どもたちが、境港で就職、あるいは、転出しても将来リターンしてもらうために、ふるさと境港に愛着を持てるよう地域と連携した文化・歴史の教育の推進や地元企業と連携した職場体験、また、本市で起業してもらうための起業家養成講座などの施策が必要です。

★キーワード

学力レベルの向上、大学の誘致、通信講座が受けられる環境整備、コミュニティスクールの推進、起業家養成講座、島根大学生による境港市の学習

3. 市民活動推進補助金の審査

市民活動推進補助金の交付にあたっては、本推進会議内で審査を行い、事業の採択・不採択を決定しています。

(1) 審査経過

期間中に、7回の審査会を開催し、23件の審査を実施しました。

なお、令和2年度第2回審査会については、申請が緑化事業のみであったことから、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため書面開催とし、令和3年度第3回審査会においては、申請団体とオンラインで繋ぎ、ヒアリング審査を実施するなど、審査方法を見直しました。

回数（日時）	審査件数	採択件数	備考
令和2年度 第1回 （令和2年3月30日）	1件	一般事業1件	
令和2年度 第2回 （令和2年5月）	8件	緑化事業8件	書面開催
令和2年度 第3回 （令和2年8月11日）	1件	一般事業1件	
令和3年度 第1回 （令和3年3月29日）	1件	一般事業1件	
令和3年度 第2回 （令和3年5月6日）	9件	一般事業3件、 緑化事業6件	
令和3年度 第3回 （令和3年8月26日）	1件	一般事業1件	ヒアリング審査を オンラインで実施
令和3年度 第4回 （令和3年11月8日）	2件	一般事業1件	
合計	23件	一般事業8件、 緑化事業14件、 新規設立事業0件	

(2) 採択事業

令和2年度は、審査10件のうち全ての事業が採択、令和3年度は、審査13件のうち採択12件、不採択1件でした。採択した団体・事業は次のとおりです。

なお、各事業の実施内容や交付金額は、事務局が作成する各年度の「境港市市民活動推進補助金事業実績報告集」にまとめます。

<令和 2 年度>

団体名	事業名	事業区分
さかいみなと中野港漁村市	漁村市交流人口拡大計画 2	一般事業
境港サーフレスキューチーム	市内の水辺における安全活動	一般事業
鳥取県立境港総合技術高等学校 ボランティア同好会	花いっぱいふれあい事業	緑化事業
京和自治会	京和会花いっぱい運動	緑化事業
竹内マツ植樹隊	竹内西緑地へのマツ苗の植栽及び 管理	緑化事業
境港市立外江小学校 PTA	しらおの森は花いっぱい	緑化事業
境港市立境小学校 PTA	花いっぱいの境小	緑化事業
上道小学校 PTA	花いっぱい ふれあい運動	緑化事業
境港市立余子小学校保護者と先生 の会	はないっぱい運動	緑化事業
中浜小学校保護者と先生の会	花いっぱい！中浜小学校	緑化事業

<令和 3 年度>

団体名	事業名	事業区分
美保関沖事件慰霊の会	美保関沖事件回想大展示会	一般事業
平和のための戦争展境港市実行委 員会	第 7 回平和のための戦争展	一般事業
キャンドルナイト in 境港実行委員 会	キャンドルナイト in 境港 2021	一般事業
境港サーフレスキューチーム	市内の水辺における安全活動	一般事業
一般社団法人 境港青年会議所	みなと防災フェスタ（※）	一般事業
水木しげるロード振興会	水木しげる生誕 100 周年記念事業	一般事業
鳥取県立境港総合技術高等学校 ボランティア同好会	花いっぱいふれあい事業	緑化事業
竹内マツ植樹隊	竹内西緑地への桜苗の植栽及び 管理	緑化事業
境港市立外江小学校 PTA	しらおの森は花いっぱい	緑化事業
上道小学校 PTA	花いっぱい ふれあい運動	緑化事業
境港市立余子小学校保護者と先生 の会	花いっぱい運動	緑化事業
中浜小学校保護者と先生の会	花いっぱい！中浜小学校	緑化事業

※「みなと防災フェスタ」は採択後、市の交付決定を受けたが、新型コロナウイルス感染症の影響から事業が中止となり、市の交付決定は取り消された。

(3) 審査方法の変更

補助金審査にかかる時間が毎回2時間半～3時間程度と長時間となっており、感染症対策という観点からも改善の必要があることから、委員間で協議し、令和4年度からの審査方法について、以下のとおり見直しを行いました。

1. 緑化事業

新規事業については、これまで審査会でのプレゼンテーションを実施していたが、新規事業についてもプレゼンテーションは実施せず、継続事業と同様に書類審査と審査会により採択の可否を決定する。ただし、審査会が必要と認める場合には、審査会でのプレゼンテーションを実施する。

審査の流れ：

- ①申請書類を各委員が確認し書類審査を実施。
- ②審査会にて、採択の可否を決定する。

区分	現在		見直し	
	新規	継続	新規	継続
審査方法	書類審査と審査会 (プレゼン有)	書類審査と審査会 (プレゼン無)	書類審査と審査会 (プレゼン無)	

2. 一般事業・新規設立事業

これまでの審査会では、申請者によるプレゼンテーションを実施していたが、継続事業については、プレゼンテーションを省略し、書類審査と審査会により採択の可否を決定する。ただし、審査会が必要と認める場合には、審査会でのプレゼンテーションを実施する。

審査の流れ：

- ①申請書類を各委員が確認し書類審査を実施。
- ②各委員は点数及び確認（質問）事項を事務局に提出。
- ③事務局は申請団体に確認（質問）事項を申請者に照会する。
- ④審査会にて補足説明をし、採択の可否を決定する。

区分	現在		見直し	
	新規	継続	新規	継続
審査方法	書類審査と審査会 (プレゼン有)	書類審査と審査会 (プレゼン有)	書類審査と審査会 (プレゼン有)	書類審査と審査会 (プレゼン無)

この見直しについては、令和４年度の審査会より実施します。

このほか、申請団体の負担軽減を図るため、申請書に添付する見積書を１０万円以上の経費に限定、また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止により事業を中止した場合には、それまでかかった経費については補助対象経費として認めるといった措置を行いました。

4. 各委員の感想

(敬称略／委員等名簿順)

・松本 幸永

会長をさせていただきました。境港に今ある資源をもっと生かすことや、地元の人では気づかないような移住された方の言葉をもっと大切にしていけるということが重要だと思います。そのためには、コロナ禍で難しい状況ですが、一人一人がコミュニケーションをとることが大事だと思います。

・松本 信子

副会長をさせていただきました。私は公民館職員で、地域との関わり・学校との連携というところに携わっています。この会議に参加して普段とは違う視点で物事を見ることができたと思います。これからも地域課題をみんなで共有して、まちづくりができたと思います。

・遠藤 恵子

米子市から境港市にきて、この会議に参加して、ここまで境港市について考えることはありませんでした。同居する1歳と3歳の孫が大きくなる頃、どんな境港市になっているだろうと考えますが、これからも小さなことからコツコツと境港市のためになることをやっていけたらと思っています。

・渡邊 冬樹

大企業のテレワーク化が進んでおり、鳥取県内への移住も増えています。即効性がある施策でなく、時間がかかっても確実に効果が出る施策をしていくことが重要だと思います。そのためにこういった会議で多様な意見を出し合うことが必要です。

・井上 竜輔

この会議に参加して、普段なら出会うことのない人と意見を交わしたり、境港のことを深く考えている人たちと出会うことができ、とても良かったと思います。今後、自分の団体での活動にも生かしていけたらと思います。

・遠藤 緑

高校を卒業してから、一度外に出たのですが、これまで自分と境港のことについて考えたことがなく、自分がなぜ帰ってきたのか改めて考える良い機会になりました。境港がより良い街になれば良いと思うので、参加することで、その力になれたらと思います。

・松田 真二

私は子育てが終わりそうな世代なのですが、世代によってニーズは違うのだろうなと思うようになりました。若い人も高齢の人も幅広い世代で構成された方が良いだろうと、若輩者ですが言いたいことは言った方がと思い、積極的に発言をしてきたつもりです。今後も、境港市のまちづくりに関与していければと思います。

・幸野 靖子

この会議に関わることができ本当に勉強になりました。会議中に皆さんが境港のことを思って議論しておられる姿を見て、やはりまちづくりは市民と行政が一体となって進めていくことが大切だと実感しました。

・吹野 真彩

私は2年目からの参加で、境港市でなく米子市の人間なので、不安も大きかったのですが、皆さんの色々な意見を聞くことができ、大学生のうちに貴重な体験ができているなと感じ、参加して良かったと思いました。

・畑本 愛

報告にも入れた「異業種・異世代交流」というのがまさにこの会で、色んな人の話を聞くことで、境港の魅力の発見にも繋がったので参加して良かったです。また、境港に住み続けようとしている移住者として、市が市民の意見を聞いて政策をしようとしていると分かり、安心できる市だなと感じました。

・池淵 一

応募するんじゃなかった。この会議に興味はありません。

・吉田 明広

補助金の審査で、協議テーマについて深く話し合うことができなかったのが残念ですが、ここで学んだことを個人で発信していきたいと思いますので、またよろしくお願いします。

5. 総括

今期は、新型コロナウイルス感染症の影響から、書面開催や時短開催を余儀なくされ、会議時間の確保が難しい状況となりました。

しかしながら、今後もそのような状況は続くと考えられ、市民活動推進補助金の審査方法の変更だけでなく、オンラインを活用した会議開催など、ウィズ・コロナ時代に即した会議運営が必要であると考えます。

6. 会議開催経過

<令和2年度>

第1回（令和2年3月30日）

市民活動推進補助金の審査（1件）、取組テーマに関する協議

書面開催（令和2年5月）

市民活動推進補助金の書類審査（緑化8件）

第2回（令和2年7月20日）

今期の取組テーマに関する協議（每熊アドバイザー参加）

第3回（令和2年8月11日）

市民活動推進補助金の審査（1件）、取組テーマに関する協議

<令和3年度>

第1回（令和3年3月29日）

市民活動推進補助金の審査（1件）、今期の取組テーマに関する協議、
まちづくり総合プランに関する説明

第2回（令和3年5月6日）

市民活動推進補助金の審査（3件、緑化6件）

第3回（令和3年8月26日）

市民活動推進補助金の審査（1件）

第4回（令和3年11月8日）

市民活動推進補助金の審査（2件）

第5回（令和4年3月7日）

第7期みんなでまちづくり推進会議の事業報告書に関する協議、
市民活動推進補助金の審査方法に関する協議

※このほか、令和3年9月12日（日）に市総合計画策定に向けた「境港市民ワークショップ」を開催し、委員から4名の参加（1名欠席）があった。

7. 委員等名簿

＜委員＞ (敬称略／会長・副会長を先頭に選出区分ごとに50音順)

No.	選出 区分	氏名	市民活動団体名等	備考
1	団体	松本 幸永	さかいみなとウィンドアンサンブル	会長
2	団体	松本 信子	境港市図書館協議会	副会長
3	団体	遠藤 恵子	境港更生保護女性会	
4	団体	渡邊 冬樹	境港青年会議所	
5	団体	井上 竜輔	境港市次世代農家の会 N E X T	
6	有識	遠藤 緑	(前 まちづくり若者委員会)	
7	有識	松田 真二	(前 夕日ヶ丘2丁目自治会長)	
8	有識	幸野 靖子	(島根大学法文学部)	令和2年度
9	有識	吹野 真彩		令和3年度
10	有識	畑本 愛	(移住者)	
11	公募	池淵 一	—	
12	公募	吉田 明広	—	

＜アドバイザー＞ (敬称略)

毎熊 浩一	島根大学法文学部教授
-------	------------

＜事務局＞

境港市総務部地域振興課企画係